



第一成算課處務順序

1446  
1305



414  
A2291  
1

第一 成算課

院有使府縣其他總ヲ定額アル經費ヲ周知シ

シ定額ニ関スル規則ノ疑問ニ回答又ハ指令等

ノ文案ヲ調理スルコトヲ掌ル其事務ヲ分ツラ

二部トス

第一部

定額アル諸經費ヲ調査交付シ及ヒ定額ニ

関スル規則等ノ疑問ニ回答又ハ指令ノ文

案ヲ調理スルコトヲ掌ル

第二部

大正十一年四月  
大隈侯爵邸

名廳定額常費等ヲ支給スルニ當テ其金額ノ高ヲ簿記シ及ヒ其支給済未済ノ高ヲ明瞭區分シ月報表ヲ製スル等ノ事ヲ掌レ

事務順序

第一條

一 凡ソ名廳ノ定額金ハ毎歳正院ニ於テ之ヲ議定シ金額及ヒ其内訳ヲ詳記シタル簿冊ヲ併セテ本府ニ達シ本府之ヲ当寮ニ下付スルヲ則トス故ニ定額金ヲ交付スル常ニ本課ニヒテ此簿冊ニ照合シテ其当否ヲ審査スルヲ要ス

ス

但事故アツテ定額ヲ増減スルコトアレハ其金額及ヒ内訳等本文ノ順序ヲ以テ当寮ニ達スルヲ例トス

第二條

一 堤防建築其他總テ工業ニ関スル經費ハ一歳交付ス可キ用途ノ金額ヲ右專掌ノ諸君ニ交付スルコト、ス而シテ正院於テハ毎歳支給ス可キノ額ヲ議定シ及ヒ内訳等ヲ本府ニ達スル等ノ順序ハ總テ前條ニ具ルナシ

第三條

一 各院有及ヒ東京府定額金ハ一歳ノ全額ヲ十ニケ月ニ分賦シ毎前月廿二日ヨリ廿五日迄ニ之ヲ交付スルコト、ス宮内有定額米モ本文ニ同シ

第四條

一 毎月分賦ノ金員ハ百位ニ止メ而シテ拾位以下ノ端数ハ六月ニ至リ一総共計シテ之ヲ交付スルコト、ス宮内有定額米ハ石位ニ止ム

第五條

一 各地方所在ノ各鎮臺學校鑛山電信鐵道ヲ始

ノ各府總テ支廳各局等へ回送スル定額金ハ距離ノ遠近ヲ量リ定額金線上ケ渡シノ期限ヲ概定スル左ノ如シ

但海軍艦内ノ經費定額金ノ交付モ本文ニ準ス

- 一 五十里以内ノ地ニアル支廳各局ハ本廳ノ定額金交付ノ期限ト異ナルコトナシ
- 一 五十里以外二百里マテノ地ニアル支廳各局ハ本月ノ定額金前月十日マテニ各其本廳へ交付ス

一二百里外五百里マテノ地ニアル支廳ハ  
局ハ本月ノ定額金ヲ前々月十日マテニ若  
其本廳ニ交付ス

第六條

一 右院有及ヒ東京府定額金ヲ交付スルノ順序  
左ノ如シノ宮内省定額米交付

第一右院有及ヒ東京府ヨリ定額金ノ交付

ヲ請求スルノ申牒及ヒ請取方達書<sup>第二</sup>  
<sup>十二号</sup>形ノ如シヲ送致スレハ先ツ其申請ノ  
額相当ナルヤ否ヲ本額ニ照査ス

第二申請ノ額相当ナレハ該廳前月ノ勘定

帳送致ノ有無ヲ第二成算課ニ照會シ  
既ニ送致済ノ外ハ其金額ニ正印ヲ捺  
シ而シテ其申請ニ管主ノ者捺印シ請  
取方達書ヲ添付シ課長ヲ經テ符頭ニ  
出シ頭ノ捺印ヲ了シテ其交付ス可キ  
金額及ヒ月日ヲ定額簿ニ鈔録シ其簿  
冊ト請取方達書トノ金額ニ調査ノ印  
ヲ勘合シ了テ第四成算課ニ付シ傳票  
ノ順序ヲナサシム

第三申牒ノミヲ送致シ請取方連書ヲ付  
來ヲサルモノハ則テ之ヲ可差出旨ノ  
連書ヲ作り其連書用紙第二十三  
号雜形ノ如シニ其  
金額ヲ登記シ申牒ト連書トノ金額ハ  
寮頭勘合ノ印ヲ捺シ受付課ヲ經テ其  
連書ヲ主任ノ院首等へ連ス  
第四前項ノ連シニ因テ主任ノ院首等請取  
方連書ヲ回送スレハ則テ第二項ノ順  
序ヲ了シ第四成算課ニ付シテ傳宗ノ  
順序ヲナサシム

第五若シ申請ノ願相ギナラサルカ或ハ勘  
定帳未タ送致セサル向ハ其旨ノ回答  
案ヲ艸シ課長ヲ經寮頭ノ授印ヲ受ケ  
卿ノ名ヲ以テ連案ヲ書シ受付課ヲ經  
テ之ヲ其院首等へ連ス  
第六省中ノ寮局ニ関係スルモノハ其寮局  
ニ回議ス  
第七準備金ヨリ支出スルモノハ回議了テ  
其金額事由等帳記ノ為メ受付課ヲ經  
テ再ヒ國債寮ニ付ス同寮帳記簿ノ上

本寮ニ遷付スレハ即チ第四成算課之  
ヲ受領シ傳票順序ヲナス

第七條

一定額金交付ノ順序ハ第六條ニ掲ケルカ如シ  
ト魚モ或ハ事故アリラ交付ノ期限等成規ニ  
違フモノハ之レカ考案ヲ具シ課長ヲ經テ頭  
調印ノ上受付課ヲ經御ノ決裁ヲ得テ交付ス  
ル事トス

第八條

一 海外派出我公使領事館・經費定額金前半額

ハク

ハ前年三月中後半額ハ前年九月中ニ之ヲ外  
務省ニ交付シ右館ニ送致セシムルヲ例トス

第九條

一 開拓使ノ定額金明治二己年始ラ之ノ基礎  
立テ同三庚午年之ヲ創定  
シ同五壬申年再ヒ該額ヲ確定シ同十  
ケ年同ヲ期シ此他同使管内ニラ徵收スル諸  
租稅ヲ併セテノ經費ヲ交付スルノ期限ハ一歲  
ニ充ツルモノナリ  
ノ全額ヲ折半シテ其半額ヲ前年四月残り半  
額ハ其年十月トシ諸稅ハ後條ニ掲ケル順序  
ヲ以テ之ヲ交付スルヲ例規トス

第十條

大藏省

一 用拓使租税其他税外收入ノ金穀等ハ毎三ヶ月ヲ束テ之ヲ本省ニ收入シ其金穀ハ經費ニ充用スル為ノ更ニ同使ニ交付スルヲ例見トス

但家禄税及ヒ官禄税ハ本使ノ經費ニ支給セサルヲ定規トシ駐贖金ハ司法省ノ經費ニ收入シ而シテ本文ノ如ク交付ノ順序ヲナス

第十一條

一 用拓使定額金ヲ交付スルハ第六條ノ順序ニ

異ルナシ

但第十條ニ掲クル租税等ヲ經費ノ内ニ交付スルトキハ其請求ノ額ト租税其他ノ納額ト相当スルヤ否ヲ管主ノ寮局ニ照會シ其相当ナルモノハ本文ノ順序ヲナス若シ其當ヲ得サルモノハ第六條五項ニ準シ處并ス

第十二條

一 用拓使所管右支廳ノ經費ハ右其距離ノ遠近ヲ量リ支派回金シ勘定帳調成ノ期ヲ愆ル



ナカラシメンヲ要ス

第十三條

一 各府縣ノ定額金ハ本年ノ額シ其前年四月中ニ請取方ヲ申請シ而シテ其半額ハ同年五月中ニ交付シ残り半額ハ本年十月中ニ申請シ同年十一月ニ至リ之ヲ交付スルヲ則トス

第十四條

一 各府縣ノ定額金ヲ請取ヘキ申請アレハ第二條ニ掲ル内訳簿ニ照査シテ当否計數ヲ調理勘算シ其額相当ナル時、預ケ米金預ケ米金ハ納金

ば  
9

ノ專理スル処ニシテ租税ノ金穀ヲ一旦上納更ニ其米金ヲ出納察ヨリ各廳ハ預ケ置キ諾然實ニ充用スノ内ヲ以テ交付ノ順序ヲナスルモノヲ云

但稟申ノ額相当ナラサルモノハ第六條ノ五項ニ照準シテ之ヲ處ス

第十五條

一 各府縣豫備金ハ初頭交付スルノ順序ハ定額ノ順序ニ異ルナシト雖モ以後ハ毎歲之ヲ各廳ニ備ヘ置シ取規トス

第十六條

一 定額金ノ内事業ノ緩急ニ因リ定期以前ニ交

歳省

付ヲ要スルモノハ正院府縣ハノ許可ナキレ  
ハ應付スヘカラス若シ其許可ヲ得ルモノハ  
第六條ノ順序ニ據ラ之ヲ交付スルコト、ス

第十七條

一 院有使府縣其他一般ノ定額金交付ノ定期ア  
ルモノ其期ニ至リ未タ交付ヲ請求セザル時  
ハ即チ其旨ノ達案ヲ具シ課長ヲ經寮頭ノ決  
判ヲ請ケ之ヲ淨書シ受付課ヲ經テ該廳ハ督  
促スルヲ要ス

第十八條

一 九ツ定額アル費用ヲ交付スル強メラテ遲滯セ  
タルヲ要ス故ニ各廳需用ノ緩急ヲ并知シ主  
務ノ負其請求書ヲ領收スルノ日ヨリ五日間  
ヲ出スシテ調査勘算シ了ルヲ則トス若シ夫  
レ事故アリテ限日内精整ニ至ラサルモノハ  
課長ヲ經テ必ス其由ヲ寮頭ニ具陳スルコト  
、ス

但交付ノ議冊其金額貳万円已上ノモノハ  
出納寮ニ回議シ其準備金ヨリ支出スレヌ  
ノハ國債寮ニ回議ス尤モ預米金ノ内ヲ以

ラ交付ヲ要スルモノハ必ス金銀ノ多サニ  
拘ハラス出納寮ニ令許スヘキコトトス

第十九條

一前條ニ掲載スル一切定額アル費用ハ一歳  
交付不可キ額ト毎月交付セシ額ト将来交付  
不可キ額トヲ明瞭ナラシメン為メ定額簿ヲ  
編製シ第二十四号雛形ニ依ヒ日カ交付ノ金  
額ヲ詳記シ每一ヶ月之ヲ通計シテ誤脱ナカ  
ラシメンヲ要ス

第二十條

一前條ニ掲ケシ定額アル費用ハ其交付ノ既済  
未済ヲ詳明ニシ既済使ト府縣トヲ介ツテ第  
廿四号雛形ニ準シ月報表ヲ製シ課長ヲ經寮  
頭調印ノ上交付課ヲ經テ之ヲ卿ニ呈スル  
トス

第二十一條

一各廳額外ノ常費モ一歳交付スヘキノ該額ハ  
内訳明細簿内訳明細簿ヲ正院ヨリ本有連  
スルハ本款第一條ニ掲ル定額常  
賞ニ判明ナリト雖モ此經費タルヤ事業ノ  
同シニ判明ナリト雖モ此經費タルヤ事業ノ  
緩急ニ應スヘキモノニシテ素ヨリ定額ノ期

節ヲ逐テ交付ス可キカ如ニ非ラス而シテ此  
金額ニ於ル或ハ正院ノ知達ニ因リ交付ス可  
キアリ額外常給或ハ右廳ヨリ直ニ稟請スル  
アリ家禄賞典其定則ヲ用テ賞用故ニ此ノ  
如キハ常ニ正院ノ達書又ハ右廳ノ稟申ヲ受  
付スルニアラサレハ之ヲ交付ス可カラス  
但右府縣額外常賞ノ内兼見艱育米等ノ如  
キハ右廳ノ請求ニ應シ定額ト同シク半ケ  
年宛シ支給スルモ妨ケナシ

第二十二條

一前條ニ掲ル正院ノ達書或ハ右廳ノ稟申アル  
時ハ毎事毎件必ラス例規定格ヲ逐ヒ精密ニ  
調理シ而シテ内訳明細簿ニ準據シ金額ノ程  
度ヲ照査シテ交付ノ順序ヲナス尤其額未定  
ノモノハ御ノ決裁ヲ經ルコト、ス

第二十三條

一右府縣經費ノ内其廳ノ申請ニ當リ豫備金ノ  
内ヲ以テ繰替置取束大藏有ハ請求スヘキ旨  
シ内務有ニテ指令セシ決議簿冊ニ一類ノ類  
ノ達書ハ第二十五達書ヲ添付シ本有ニ送致  
号雜形ニ詳カナリ

スレハ之ヲ本寮ニ回付ス本課於テハ此書冊ニ就テ金負事項ヲ豫備繰替元帳此元帳ハ豫備繰替置クヘキ旨ヲ指令シタル後請取方ヲ申請スルアレハ此簿冊ト照査シ当否ヲ勘合スル為メ本課ニ設ニ詳記シ通知書ト元帳トニ調査ノ印ヲ勘合シテ通知書ハ本課ニ止メ決議簿冊ハ本有ヲ經テ内務省ニ返致シ尔後右廳ヨリ請取方ヲ申請スルトキハ此元帳ニ照査シテ交付ノ順序ヲナス

但本有所管ノモノニシテ豫備金繰替ノ指令ヲナストキハ其金負事項ヲ元帳ニ記入

スル等終ラ本文ノ順序ニ準ス

第二十四條

一 豫備繰替金仕記書ハ最前其繰替ヲ該府縣ニ指令スル時々有中ノ回議書本寮起案ノモノハ編集課ニ就ス照會又ハ内務省ヨリ回付スル第一類通知書及ヒ成規ニ照シテ其消費ノ当否ヲ調査シ計數ヲ勘算シテ之ヲ交付スルコト、ス但本文調算ヲ了シ現金ヲ交付スレハ直ニ之ヲ勘定帳元拂ニ編入シテ決算スルヲ例トス

第二十五條

一臨時費用ノ金穀ヲ交付スル本省所管ノモノ  
ハ主務ノ該寮ニテ諸般ノ順序ヲ了シ御ノ名  
ヲ以テ寮頭ニ充タル連書ヲ添へ本寮ニ付ス  
ルヲ定規トス而シテ此連書ヲ本課ニ受レハ  
主務ノ負經費内説明細簿ニ就テ其事款ヲ照  
査シ交付ノ順序ヲ為ス

但内務省所管ノモノハ決判府ノ上二類ノ  
第二十五号  
雜形ノ如シ連書ヲ添へ本省ニ回付スルモ  
ノトス其順序ハ第二十三條ニ同シ

本條ノ如ク記載スルト金モ暫ラク従前  
ノ順序ニ據テ處弁ス

第二十六條

一凡ソ右廳ノ經費ニシテ其年支給ス可キノ額  
ハ其廳ノ經費内説明細簿ニ詳悉シ交付府ノ  
額ハ日ヲ逐テ經費定額簿ニ詳記スルモノナ  
レハ常ニ此簿冊ニ準據シテ猶殘額アルヤ否  
ヲ點檢シ該額ノ皆拂ニ至ルモノハ更ニ正院  
ヨリ令達アルニアラサレハ交付セサルコト  
、ス

第二十七條

一 凡ソ成規アル金穀ノ細付支出ス可キモノニ  
シテ本省ニ関スルハ部内ノ察局内務省ニ関  
スルハ同省部内ノ察局ニ於テ右廳ヨリノ照  
管或ハ稟申ニ對シ回答或ハ指令案ヲ作り本  
察ニ回付スルコトハ本省課於テハ受付課ヨ  
リ之ヲ受ケ該簿冊ニ就テ成規定例ニ照シ其  
当否ヲ審査シ該負ヲ勘算シ課長ヲ經テ察頭  
ニ出スコトハス

但右課ニ関涉ノ件ハ本課檢閲ノ上該課ニ

回致ス

第二十八條

一 前條ニ掲クル議案中金穀ノ負數考案ノ旨趣  
等若シ定規ニ違ヒ又ハ計算ヲ誤ルモノアル  
トキハ其旨ヲ付箋ニ詳記シ課長及ヒ察頭ノ  
檢印ヲ請ケ受付課ヲ經以テ主務ノ察局ニ返  
致ス

但内務省ノ回議ニシテ本省御ノ檢印ヲ要  
スルモノハ本文ノ如ク付箋シテ本省ニ出  
スコトハス

第二十九條

一 成規定例トハ濟救賑恤其他九ヲ確定ノ規則  
アルモノニシテ此規則タルヤ時々ノ公布等  
ニヨリ俟變更アルモノナレハ常ニ例規沿革  
百長規則ノ沿革ヲ逐ヒ本寮編集ニ照査參着  
課ニテ蒐輯セシ簿冊ヲ云フ  
シテ抵觸セシメサルヲ要ス

第三十條

一 成規定例ナキモノニシテ一二ノ前例ヲ逐ヒ  
収出スル處ノ金穀ハ主務ノ寮局課ニテ指令  
案等ヲ調成シ御ノ決裁ヲ經都ラノ順序ヲ了

シテ後本寮ニ達スルモノナレハ定柝ナキモ  
ノハ御ノ決判前本寮ニ接受セサルモノトス  
但臨時費用ニ属スル件ハ本寮ノ協議ヲ經  
サルノ順序ニ改定シ本條ノ如ク掲記スル  
ト雖モ姑ラク便宜ニ因リ従前ノ例ニ倣ヒ  
之ヲ處并シ他日慣熟ノ期ヲ待テ釐正ス可  
シ

第三十一條

一 凡ソ定額アル金穀及ヒ其規則ニ關係ノ條件  
等シ正院ヨリ本有ヘ下議スルモノハ之ヲ本



寮ニ送致スレハ本課於テ其当否ヲ審察熟  
議シテ該件各当ナルハ其旨上答案ヲ州シ課  
長ヲ經寮頭ノ檢印ヲ請ケ受付課ヲ經テ卿  
次裁ヲ了シ最前下付ノ原案ヲ添付シ又受付  
課ヲ經テ本有文書課往復拭ニ送付シ各議ヲ  
淨書シテ正院へ返呈セシム而シテ上答案ハ  
同拭リヨリ本寮へ返致スレハ編集課ニ付シ  
テ謄寫其他ノ順序ヲナサシム

第三十二條

一 正院下議原案中若シ其当ヲ得サルコトアル

欽或ハ實際ニ於テ支吾スル等ノ件アルトキ  
其旨趣ヲ州議シ又ハ其事由ニ因リ寮頭ノ旨  
ヲ奉シ更ニ法案ヲ整理シテ上呈スルコトアル  
可シ其順序ハ前條ニ掲ルカ如シ

第三十三條

一 前條ニ掲ル條件ヲ卿ヨリ下議スルコトアルハ  
其当否ヲ審察シテ上答案ヲ州シ協議ヲ經テ  
後之ヲ編集課ニ付シテ淨書マシメ寮頭調印  
ノ上受付課ヲ經テ之ヲ卿ニ呈ス  
時宜ニヨリ  
頭ヨリ直ニ  
上呈スルコトアルハ

且其事由ニヨリ寮頭ノ旨ヲ奉シ新ニ法案  
ヲ調整スルコトアリトス

第三十四條

一定額金穀ニ関スル規則ノ内曉解シ難キノ條  
アルカ或ハ一事兩岐ニ涉リテ決シ難キ件ア  
ルハ諮詢照會ヲ受ルマレハ其事端ヲ詳悉シ  
先規例格ニ照シテ回答又ハ指令案ヲ作り課  
長ヲ經テ寮頭ニ出セハ頭之ニ決判シ御ノ旨  
ヲ以テ指令スルトトス其本寮ハ諮詢スルモ  
ノハ寮頭ノ名ヲ以テ之レニ回答ス

第三十五條

一 疑問照會ニ對シ其答議ヲ州スルハ必ラス  
引證ヲ付ス可キトス其引用ノ證ハ之ヲ二  
項ニ分チ一ハ規則一ハ補則トス

其一規則ニ照シテ毫モ疑ヲ容レサレモノ  
ハ某ノ規則第幾條ニ照準ス可キ旨ヲ  
回答又ハ指令中ニ掲載ス

其二規則ニ照シテサシク疑ヒアルモノ  
ハ規則ニ明文ナキモノハ正院稟候又  
ハ本省ハ稟議ヲ州シ若下ヲ經テ之ヲ

處分シ号ケテ補以下ノ將來之ヲ憑據  
トシテ指令又ハ回答ヲ州ニ此ノ如キ  
ハ某ノ規則第幾條ノ補則ニ準拠シ  
ルコトヲ前議ニ掲記ス

第三十六條

一前條ニ掲クル補則整成ノ時々大藏卿ノ名ヲ  
以テ之ヲ右廳へ回達シ規則誤謬ノ患ノカラ  
シム

第三十七條

一補則ハ唯規則ノ趣旨ヲ解明スルニ止ル故ニ

正院又ハ本府等ヨリ一般公布ノモノハ前條  
ノ例ニアラス

第三十八條

一第一條ニ掲ル如ク諮問照會スルノ際先規則  
柝ノ擬ルヘキナクシテ更ニ便宜ノ方法ヲ設  
ケ或ハ之ヲ折衷シテ一ノ法則ヲ制定セント  
要スルモノハ其争理ヲ審察シ正院へ稟議及  
ヒ布達按等ヲ具シ寮頭ノ調印ヲ請ケ而シテ  
關係ノ寮局へモ回議シ卿ノ決判ヲ乞フ可シ  
決裁ノ上其議冊ヲ本府ニ付スレハ其印章

シ点檢ノ上本有文書裡在簿掛ニ送付スレ  
ハ同掛ニ於テ之ヲ淨書シ正院ハ進達セシメ  
其指揮ヲ俟テ第三十四條ノ順序ニ據リ處  
ス

第三十九條

一第三十四條ニ掲クル條件中従前一定ノ成規  
ナキモノ等實際ノ施為ニ因リ新ニ便宜ノ方  
法ヲ設ケント欲スルハ本課於テ其法按ラ  
作リ卿ノ決判ヲ經テ正院ハ進達スルヲアルハ  
シ

第四十條

一九ノ金穀出納上ニ於テ將承規格トナル可キ  
條件特ニ正院ノ許可ノミニシテ其旨一般ハ  
公布セサルモノハ其許可ノ旨趣ヲ必ラス本  
省ニ令達シ本省又之ヲ当寮ニ達スルヲ例ト  
スレハ本課於テハ其時々之ヲ簿記シテ照査  
ノ用ニ供ス

但月俸其他一般ノ規則アルモノ其規則  
或ハ正院ノ允許ヲ得又ハ正院ノ委任ニ因  
テ該廳限リ之カ變則ニ設ケル等ノ類ハ正

大藏省

先ノ知達又ハ各廳ヨリ報告ス可キモノナ  
レハ其時々無遺漏各主任ノ成算課ニ回致  
ス可キコト、ス

第四十一條

一前條ニ掲ル條件ヲ本有於テ許可シ其旨一般  
ニ相達セサルモノハ其許可ノ旨趣ヲ各寮ニ  
達スルヲ例トスレハ前條ノ如ク之ヲ存録ス

第四十二條

一前條ニ掲ル如キ達書ヲ受領セシ上ハ他日其  
費用ノ計簿ヲ調査スルノ際必ラス此達書ヲ

以テ準拠トス

第四十三條

一前條ノ達書中若シ其事款一般ノ例規トナレ  
可キモノニシテ之ヲ公布セサレハ出納検査  
上ニ於テ支障アルト思慮セシハ其由ヲ具  
陳シ一般ノ公布ヲ要スルヲアル可シ

第四十四條

一各廳ニ於テ旅費其他手当金等ノ適宜方法  
設ケシ旨ヲ届出ルアレハ本課之ヲ受領シ取  
扱ハルニ照シテ其当否ニ審察シ其相当ナル

モノハ本課檢印ノ上第ニ條三等ノ各課ニ回  
致シ寮頭ノ檢閱ヲ了シ受付課ヲ經テ之ヲ御  
ノ一閱ニ供ス御閱了シテ後本寮ニ付スレ  
之ヲ編成シ以テ將來ノ照會ニ供ス

第四十五條

一前條ニ掲クル届書ノ中若シ其妥当ナラサル  
條アルカ又ハ例規ニ抵觸スルノ件アルハ其  
旨趣ヲ詳悉セル回答或ハ指令按テ州シ課長  
及ヒ寮頭ノ檢印ヲ了シ受付課ヲ經テ御ノ決  
判ヲ請ケ順序ヲ了シ以テ該廳へ令達ス

15  
22

但其事款若シ該廳長官ノ權外ニアツテ正  
院ノ裁可ヲ經ス全ク專決ニ出ルト思量セ  
シトキハ其旨ヲ具シ連按ヲ州シ本文ノ順  
序ヲ了シテ後其連書ト共ニ其報告ヲ返還  
スルトトス故ニ如此ハ正院ノ允許ヲ經テ  
ル上ニアラサレハ決テ定規ト見働ス可カ  
ラス

第四十六條

一各寮局起按ノ回議巡覽ノ冊冊往後文書ノ類  
課事務ニ要用ナリ

大藏省

再々本寮ニ回致セシムルヲ為メ其議冊寮名  
ノ上ニ要再回ノ印ヲ捺スルヲ例トス  
取再回ノ印ヲ捺セシ回議ハ一冊子ヲ作  
ラ其件銘及ヒ番号月日等ヲ鈔録シ若シ再  
回遅々スルキハ主務ノ寮局ニ促シ速ニ回  
致セシム再ヒ回致スレハ之ヲ編輯課ニ付  
シテ謄寫其他ノ順序ヲナサシム

第四十七條

一庫内ノ現貨出入及ヒ紙幣其他公債證書諸印  
紙類製造并ニ銀行預ケ金有高等檢視ノ為メ

は  
23

寮頭ノ命ニ回リ市所へ臨時出張スルヲアリ  
トス其詳細ハ本寮事務ノ順序第二十款ニ就  
テ見ル可シ

第四十八條

一課長ハ本課ノ事務ヲ擔当整理スルニ於テハ  
寮頭ニ對シ其責任ヲ有ス故ニ課中事務ノ当  
否ヲ論并シ其說議ヲ陳述シ一課属官ノ能否  
勤怠ヲ監視シテ之ヲ寮頭ニ稟白スルヲ得

第四十九條

他ノ課事務又並滞セ

大蔵省

ニ於テ障礙ヲ生スルモノトアレトキハ該課  
ニ對シ速ニ督促スルヲ要ス

第五十條

一課中官負テ掌日々彙弁スル所ノ事務ハ各自  
其概要形第三十号雜形ノ如シ採記シ其翌月二日十二日ハ其  
月廿日ヲ限リ之ヲ課長ニ出スヲ例トス課長  
閱了シラ又之ヲ合纂シテ一課ノ月報トナシ  
第二十九号雜形ノ如シ同五日十二日ハ其月  
ヲ期シ之  
ヲ寮頭ニ出スヲ則トス

は  
24 完



